

卒論までの流れ

時	活動と具体的な内容	平子先生に頂いた助言
2019年 Q3	・ゼミ発表 テーマ:「関西方言におけるネオ方言について」	○「ネオ方言」というテーマは広く、既に研究が進んでいるため、テーマ設定のために重要な「穴」を見つけにくい。地域を限定するか、調査する方言の中でも表現を絞る必要がある。
Q4	・ゼミ発表2回と、期末レポート テーマ:「関西方言における否定辞の世代差について」	○大分絞れてきたので、あとはどの地域で調査をするか。三重県での先行研究を探してみると良い。
2020年 Q1	・ゼミ発表2回 テーマ:「関西方言における否定辞の世代差について」(三重の先行研究を追加)	○三重県においても、アンケート調査で、ある程度意味のある結果が得られそう。具体的な地域や調査項目をそろそろ決めていく。
Q2	・課題(先行研究の要約×2) ・卒論アウトライン作成	○予測される結果のパターン、それぞれの結果から導き出される結論までを見通しつつ、調査方法と調査項目について、なるべく早めに考えるべき。
9月	・方言調査のアンケートをGoogleフォームで作成。	○アンケート調査をする際には、質問文は極力丁寧に、詳しく書く。また、スクロールを最小限にするなど、調査協力者に負担がかからないように工夫する。 ○出身地は両親のものも書いてもらう。
10月	・作成したアンケートを配布。 ・卒論「はじめに」仮作成 ・Q3ゼミ発表1回目 テーマ:「三重県北部方言における否定辞について」(発表時点でのアンケート調査結果を簡単に集計したものをまとめた)	○先行研究をもっと細かく書く。 ○良いデータは取れているので、あとは見せ方。
11月	・アンケート調査結果を集計し、集めたデータをグラフにする作業など。 ・Q3ゼミ発表2回目 テーマ:「三重県北部方言における否定辞について」(1回目の発表の改善点や疑問点を補完。)	○グラフの軸の数値は揃える。
12月	・卒論を少しずつ書き始める。	
1月	・本格的に卒論執筆開始。平子先生に添削していただきながら進める。 ・締め切り日に卒論提出。	○調査結果についての数字を列挙するのではなく、全体としてどういうことが言えるのかが重要。結論→詳細の書き方を意識する。 ○特に言及することがない部分の結果は省いてよい。 ○グラフなどの図は、同じものも何度でも載せる。